

「エネルギーあふれる社会人と出会う」プログラム

NPO法人 じぶん未来クラブ

「NPO法人 じぶん未来クラブ」(以下「じぶん未来クラブ」)は、設立10周年を迎えた今年の夏に「シゴトのチカラ スペシャル」という中高生を対象としたイベントを実施しました。サブタイトルは、「本気の大人と出会う3日間」。3日間で合計66人もの大人が講師となります。生徒はそれぞれ1時間半ずつ講師の話を聞き、グループで感じたことを話し合い、発表しました。

じぶん未来クラブは、「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」のモデル事業を実施する時から、支援団体となっています。

今回は、このイベントをなぜ実施しようと思ったのかを都立高校の支援を担当する平賀恵美子さんに聞きました。



平賀さんへのインタビュー

——このイベントで、中高生に一番伝えたかったことは何ですか？

平賀

大人になること、将来が楽しみだと思えるようになって欲しい。

働くことは「辛い」「大変」と、多くの高校生は思っています。もちろんその通りですが、それ以上に、世の中の誰かの役に立っている充実感、達成感、自信、仲間、報酬…。困難を乗り越えて得られるたくさんのものがあることを知って欲しい。思いを持って働くエネルギーあふれる社会人と出会って、自分にも思い切り挑めることをしたいという未来への冒険心を覚えてくれたらと思っています。

——企画として、「これは外せない」というポイントは？

平賀

この企画のタイトルにもありますが、大人が「本気」で高校生に向き合うことだと考えています。高校生からは、社会人は完成した人間で淡々と仕事をしているように見えています。がむしゃらに生きているという感じは受け取れないでしょう。しかし、社会人も悩み、壁にぶつかり、失敗と試行錯誤を繰り返して生きています。弱い部分もたくさんある中で、そこから逃げずに生きている大人の「本音」を正直に、感情とともに具体的に話していくだけようにしています。それが高校生の日常の中で経験している困難等とリンクして、共感を生むと考えています。

——参加型にするための工夫は？

平賀

・お互いを知る時間を多く取る。

高い緊張感の中では心を開いて話を聞ける状態になりません。社会人と高校生同士がお互いに自己紹介した

り、ちょっとしたアクティビティを入れて、緊張感を取ってから本題に入るようにしています。

・当事者として意識できるような問い合わせ

社会人の話をただ聞くだけでなく、「こんな時自分ならどうするか」という当事者の立場でどうするか、というインタラクティブな問い合わせをし、グループワークを多く取るようにしています。

・カードに書いてから質問する

質問などが出来やすいように、まず自分の考えを書くカードや付箋を用意するようにしています。

——学校でのプログラム実施で大切と思うことは？

平賀

総合的な学習の時間の2年間のプログラムを先生方と一緒に作っていますが、最も大切にしているのは、「動機付け」です。

「この授業は自分にとって意味がある」「大変そうだけど、やったら楽しそうだ」そう思えるような仕掛けをうまく作るということ。

次に、出会う人の数。ある高校では、大学生が何回も学校へ来ます。自分から社会人に会いに行くインタビューの機会もあります。初めての人にはドキドキしますが、人が語る情報が一番面白い。いろいろな人に会って、情報を得る楽しさを知ってもらい、世の中に出ても人の関わりで成長して欲しいと思っています。

三つ目は、甘えが効かない第三者の目を入れるということ。職業人インタビューも自分で連絡をして会う約束をし、インタビュー内容を事前に御本人に送ります。新入生に自分の学校の特徴を紹介するプログラムでは、新入生にプレゼンテーションをする前に、大学生にプレゼンして完成度を上げます。甘えられない、学校内外の「第三者」の評価を入れることで、プログラムへの向かい方が変わってくると考えています。

その他の支援団体も高校生が参加できる事業を実施しています

プログラム名 ジョブシャドウ 公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本

社会人に影のようにつき、仕事をしている姿を見ることで、コミュニケーション力や課題対応力と共に、学校での学びの大切さについて知る機会となります。夏季休業中に、東京都教育委員会と共に実施しています。

プログラム名 OPEN-CAMP 株式会社博報堂

博報堂のデザイナー、コピーライター、プランナーなど様々な職種の社員が講師となり、発想法や企画づくりのコツなどを学ぶ講座。ホームページで参加者募集を行っています。